

年報刊行のあいさつ

都市政策研究センター代長・専修大学経済学部教授 平尾光司

「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」の研究プロジェクトは、2007年度はその計画期間の4年目を終了した。文部科学省による研究プロジェクト中間評価・審査も高い評点でパスし、またこれまでの研究成果が国内、海外で評価されて研究員によるその成果の招待発表が内外で行われた。

また、羽田空港国際化が具体化し、臨海部の再活性化が進み、企業の研究開発センターの拡張と新規立地が相次いで、川崎市の経済も新段階を迎え、我々の研究領域・研究問題意識の再点検が必要になった。

ゴールを目指した研究活動を展開するための共通課題を設定するべく、恒例の春季合宿を2007年4月21日―22日に山中湖セミナーハウスで実施した。

合宿の全体会議では、2007年度の研究活動の柱として、中間報告書『川崎都市白書』の編集・執筆分担を決定した。

さらに、川崎市よりの委託を受けて『川崎の産業』（2008年3月刊行予定）の執筆も決定された。また、公開講座として、この都市白書の紹介をテーマとして開催すること、公開シンポジウムは「京浜臨海部の再生」を統一テーマとして開催することも決定された。全体会議の基本方針を受けて、センターを構成する4つのユニットがそれぞれの研究テーマを決定した。

(1) 都市経済政策ユニット

- ・川崎市の産業構造・所得構造の変動とその政令都市間での比較分析
- ・川崎市の税制と税収構造の分析

(2) 都市産業ユニット

- ・川崎市内のインキュベーション機能の調査
- ・多摩シリコーン・バレーの実態調査と川崎市電機産業の変化
- ・中小企業の追跡調査(2006年度継続)
- ・川崎におけるオープン・イノベーション・システムの可能性

(3) 都市基盤ユニット

- ・臨海部再編・強化へのインフラの整備
- ・羽田空港機能と神奈川口整備
- ・エコタウンからエココンビナートへの高度化
- ・コミュニティービジネスの現状
- ・音楽産業の可能性

(4) 都市比較ユニット

- ・都市競争力の国内政令都市との比較分析
- ・GISを利用した川崎市の企業立地、物流分析

2007年度はこのような基本方針のもとに着実に研究活動を展開して、都市白書が7月はじめに刊行され、その発表の公開講座(7月14日)が川崎市産業振興会館を主会場に開催された。公開シンポジウムは中村剛次郎横浜国立大学教授に基調講演をお願いして実施された(12月8日)。2月9日には「羽田空港神奈川口構想」についてのミニ公開講座を開催した。この他にも各ユニットごとに外部講師を招待した多くの研究会がもたれた。

さらに、これまでの研究成果の発表・報告がセンターメンバーによって内閣府、川崎市、諸学会で発表された。特に10月に上海社会科学院の「地域・中小企業国際シンポジウム」では川崎の調査報告を行い、これが契機となって12月に上海社会科学院の研究員4名が川崎市を訪問し、KSP、産業振興財団でヒアリングするなど国際交流の実績を上げ、今後の長期的な研究協力の基礎となった。

以上に報告したように2007年度も年度当初に予定した活動を実施して終了することが出来、その成果を年報としてとりまとめた。

本プロジェクトに多大なご支援をいただいている関係各位、特に川崎市、川崎産業振興財団、川崎市商工会議所、株式会社KSP、および川崎信用金庫の皆様に深い謝意を表したい。